

# 平成28年度 鶴岡市総合教育会議 次第

平成28年12月19日(月)  
10時30分～ 市役所庁議室

## 1 開会

## 2 あいさつ

## 3 協議

(1) 英語教育の推進について

資料1

(2) 帰国・外国人児童生徒への教育について

資料2

(3) 学校教育活動への人的支援について

資料3

(4) その他

## 4 閉会

小中高大連携プログラム「世界に羽ばたけ！出羽さんさんプロジェクト（鶴岡モデル）」

**国の目指す方向性<2020年から>**

【小】(中学年) 外国語活動型：週 1~2 コマ  
(高学年) 教科型：週 2 コマ程度

【中】授業を英語で行うことを基本とし、身近な事柄を重視した言語活動の実施

【高】授業を英語で行うとともに、発表・討論・交渉など高度化した言語活動の実施

※外部試験：中学卒業時英検 3~準 2 級  
高校卒業時英検 2~準 1 級

**山形県が目指す英語教育の目標**

自分を表現！郷土を発信！「英語を用いたコミュニケーション能力」の育成

【小】自分の興味があることについて、他者と英語で意欲的に会話することができる。

【中】自分の地域等について、他者に英語で的確に発信することができる。

【高】討論やディベートを他者と英語で、論理的に行うことができる

**子どもの実態**

- 英語を使った活動に楽しんで参加
- 音から文字への移行期でのつまづき

【ふるさと鶴岡を愛し、いのち輝く人間の育成】

☆人とのかかわりを通して、逞しさ・優しさ・賢さを育む

☆英語を通して、ふるさと鶴岡を見つめなおす

**未来への期待**

- 英語で何かを成し遂げる喜びを体験
- 自らを語る知識とことばの獲得

**【高等学校卒業時の姿】**（鶴岡南高等学校、鶴岡中央高等学校等）

様々な場面で適切にコミュニケーションをとることができるより高度なコミュニケーション能力の習得

円滑な接続

**【中学校卒業時の姿】**

身近な話題や、自分の住む地域についてやり取りができるコミュニケーション能力の習得

**研究推進委員会**

- 各校長（教頭）
- 研究主任
- 重総局
- 各校外国語担当
- 市担当指導主事
- 企画・立案・運営

**鶴岡第二中学校**

- 小・中学校の連携（カリキュラム、指導法、教員）
- 文字指導法の確立「音」と「文字」をつなぐ指導法
- 英語を用いた英語指導法の確立
- CAN-DO リストを用いて「わかる」から「できる」への転換
- NRT、実力テスト、入学試験への対応
- 英検・GTEC for STUDENTS など外部考査の積極的活用
- 課題解決型の言語活動（My Project）への取り組み
- 「パワーアップ・イングリッシュ」の運用と ALT の積極的活用

**運営指導委員会**

- 外部有識者
- 県担当指導主事
- など



**【小学校卒業時の姿】**

身近な話題について積極的に聞いたり、話したりすることができるコミュニケーション能力の素地・基礎

円滑な接続

**朝陽第三小学校**

3・4年生  
年間 3.5 時間の外国語活動  
(15分モジュール×105回)

5・6年生  
年間 7.0 時間の英語科  
(45分1コマ+15分モジュール 105回)

外部人材の活用  
鶴岡を取り入れた学習

**朝陽第五小学校**

3・4年生  
年間 3.5 時間の外国語活動  
(15分モジュール×105回)

5・6年生  
年間 7.0 時間の英語科  
(45分1コマ+15分モジュール 105回)

外部人材の活用  
鶴岡を取り入れた学習

**京田小学校**

3・4年生  
年間 3.5 時間の外国語活動  
(15分モジュール×105回)

5・6年生  
年間 7.0 時間の英語科  
(45分1コマ+15分モジュール 105回)

外部人材の活用  
鶴岡を取り入れた学習

**栄小学校**

3・4年生  
年間 3.5 時間の外国語活動  
(15分モジュール×105回)

5・6年生  
年間 7.0 時間の英語科  
(45分1コマ+15分モジュール 105回)

外部人材の活用  
鶴岡を取り入れた学習

## 【提案事業】 外国籍子女支援のための学習支援体制構築モデル事業

### 教育委員会学校教育課

#### 提案事業の背景・概要

- 現在鶴岡市内小中学校には、外国籍子女が11名在籍しており、その中には、日本語でのコミュニケーションがままならず、支援を必要としている子もいる。
- 現在2名の外国籍子女支援者が日本支援にあたっている。
- 今後、鶴岡市内の企業・工場や山形大学などの高等教育機関へ、多くの外国人研究者等が来鶴することが予想され、それに伴い、外国籍子女が増加することが予想される。
- そのため、このような外国籍子女を受け入れる「国際学級」を設置し、彼らが安心して学べる環境を提供したいと考え、この提案をすめるものである。

#### 期待される効果

##### 国際理解教育の推進

現在鶴岡市では、文部科学省の研究開発事業を行うなど、英語教育に力を入れている。外国の方との交流を通して、「身に付けた英語を活用する機会が増える」、「国際感覚が養われる」などの教育的効果が期待できる。

##### 外国人の定住の促進

外国人研究者・技術者に限らず、子どもの教育環境は、移住を決める上では重要な要素となりうる。外国籍子女が安心して学べる環境整備は、外国人の定住促進にもつながると考えられる。

## 国際学級とは

東京都港区立東町小学校に設置されており、その概要は以下のとおりである。

国際学級とは、外国人児童に多様な教育の機会を提供するため、通常学級に外国人児童を受け入れるE S C (English Support Course) を設置し、E S C児童に対して英語で授業等を行うものです。

・ E S Cを設置した学級には、日本人児童と外国人児童がともに在籍します。

・ E S Cには、国際学級講師 (E S T = English Support Teacher) を配置します。E S Tは、E S C児童に対して英語で授業等を行います。E S C児童は英語によるサポートを受け、安心して学校生活を送ることができます。

・ 日本人児童・外国人児童の双方が、多様な文化や価値観に触れることができます。

東京都港区HPより

## 平成29年度事業計画(案)

○平成31年度の国際学級設置をめざし、国や県に関連事業の調査、設置校の選定、教育課程の検討など、調査研究を行う。

○英語と日本語の両方が堪能な方 (JETプログラムALT経験者を想定) を雇用し、上記の調査に加えて、国際理解教育の推進に資する活動にあたってもらう。

○近年鶴岡に来自る外国人は多国籍化しており、「国際共通語」の側面を持つ「英語」が堪能な方を雇用することで、より多くの国籍の子女の支援が可能となると考える。

## 今後の事業計画(案)

【平成29・30年度】

- ・ 国や県に関連事業の調査
  - ・ 関係機関との協議、調整
  - ・ 先進校視察
  - ・ 国際理解教育の推進に関する活動
  - ・ 設置校の選定
  - ・ 教育課程の検討
  - ・ 学校訪問など
- 【平成31年度】
- ・ 国際学級設置、運営

## ～港区における国際学級～

平成 24 年 4 月～ 港区立東町小学校

平成 29 年 4 月～ 南山小学校 (1 年生に新設)

※平成 30 年度以降も順次 1 年生に開設

### 【国際学級とは】

- ・外国人児童に多様な教育の機会を提供するため、通常学級に外国人児童を受け入れる E.S.C. (English Support Course) を設置し、E.S.C 児童に対して英語で授業等を行う。
- ・E.S.C を設置した学級には、日本人児童と外国人児童がともに在籍する。
- ・E.S.C には、国際学級講師 (E.S.T = English Support Teacher) を配置。E.S.T は、E.S.C 児童に対して英語で授業等を行う。E.S.C 児童は英語によるサポートを受け、安心して学校生活を送ることができる。
- ・日本人児童・外国人児童の双方が、多様な文化や価値観に触れることができる。
- ※日本人児童が英語を話せるようになることを目的とするものではない。



### 【入級対象】

- ・港区在住の外国人児童 (外国籍のみ) で、英語能力を有する児童
- ※日本国籍を有する帰国児童や二重国籍児童は、入級できない。
- ※入級にあたり、英語能力を判定します。英語能力が十分でない場合、入級できないことがある。

### 【受入児童数】 1 学年に 10 人以内

※東町小学校・南山小学校の通学区域以外の児童は、各校の定員を超えての受け入れはできません。

### 【授業の実施方法など】

- (1) 東町小学校の平成 28 年度の在校生 (1～6 年生) 1 年生から 6 年生の各学級に E.S.C 児童が在籍し (学年全体で 10 人以内)、学年に 1～2 名の E.S.T を配置する。平成 29 年度以降も、同様の方法で国際学級を運営する。
- (2) 平成 29 年度以降の東町小学校・南山小学校の 1 年生 (進級後も同様)

1 つの学年に 2 学級以上になる場合、1 学級にのみ E.S.C を設置する (他の学級は日本人児童のみ在籍する学級となります)。

- ・E.S.C 児童に対して英語で授業等を行う E.S.T を配置する (E.S.T は学年に 1 人です)。
- ・基本的な学校生活 (朝の会や帰りの会、給食など)、生活科・音楽・図工・体育の授業に関しては、学級担任と E.S.T の 2 人の指導で、E.S.C 児童と日本人児童が同じ教室で学ぶ。
- ・国語・算数に関しては、E.S.C 児童は、日本人児童とは別室で、E.S.T により英語で授業を受ける。
- ※学習内容は、日本の学習指導要領に準拠したものです。

国際交流が目的!

### 【適正な就学の確保について】

東町小学校では、国際学級を開設して以降、日本人の入学希望者が増加し、児童数が年々増加しています。教育委員会では、東町小学校に入学することを目的に、実際の生活の本拠地とは異なる住所に住民票を異動するケース等については、職員が児童の住民登録地へ訪問し、居住実態の確認を行っています。

## 1) 外国籍児童生徒・帰国子女内訳

No.	学校	学年	国籍	性別	支援者	備考
1	朝四小	2	韓国	女		鶴岡高専関係者
2	朝四小	5	韓国	女		鶴岡高専関係者
3	朝六小	5	フィリピン	男		
4	朝三小	3	中国	女		
5	朝三小	3	オーストラリア	女	○	
No.	学校	学年	国籍	性別	支援者	
6	あさひ小	3	オーストラリア	男	○	
7	朝三小	4	アメリカ	女		山形デザイン関係者
8	朝三小	1	オーストラリア	女	○	

## 2) 外国人研究者等の内訳

①「現在 18 名の外国出身者が研究活動等に従事しており、・・・」

- 米国 (4)
- 台湾 (2)
- 中国 (2)
- イタリヤ (2)
- インド (1)
- カナダ (1)
- フィリピン (1)
- エクアドル (1)
- サウジアラビア (1)
- カーナ (1)
- スコットランド (1)
- フランス (1)

②「外国人の割合が一番多い企業では、全従業員数の約 1 割 (15 名) を占めています。」

→ (株) Spiber (スパイバー) のことです。

## ◇平成28年度

## 1. 学校教育支援員

42名（7h勤務28名・4h勤務14名）

	配置校数 / 全校数	支援員
小学校	22校 / 30校	29名
中学校	10校 / 11校	13名
計	32校 / 41校	42名（前年度比±0）

## 2. 指導アシスタント（複式学級設置校）

2名（7h勤務 2校兼務で1校102日ずつ）

	配置校数	支援員
小学校	4校	2名

（上記 1.2. 未配置校 … 黄金小・大泉小・京田小・上郷小・豊浦中）

## 3. 合理的配慮協力員

2名（4h勤務）

	配置校数	協力員
小学校	2校	2名

## ◇平成29年度（予算要求）

## 1. 学校教育支援員

44名（7h勤務34名・4h勤務10名）

	配置校数 / 全校数	支援員
小学校	24校 / 29校	31名
中学校	10校 / 11校	13名
計	34校 / 40校	44名（前年度比+2）

## 2. 指導アシスタント（複式学級設置校）

5名（4h勤務 1校に1名の単独配置）

	配置校数	支援員
小学校	5校	5名

## 3. 合理的配慮協力員

6名（4h勤務）

	配置予定校数	協力員
小学校	6校	6名

※ 場合によっては、年度途中で子どもの状況が変化し、人的支援の緊急度が高くなった学校に対し、途中から配置することも考えられる。